

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2092600036		
法人名	有限会社幸楽		
事業所名	グループホーム 幸楽		
所在地	長野県木曾郡木曾町日義4905		
自己評価作成日	平成21年9月1日	評価結果市町村受理日	平成22年2月23日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://aaa.nsyakyo.or.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2092600036&SCD=320
----------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社マスネットワーク 医療福祉事業部		
所在地	長野県松本市両島7-1 オフィス松本堂2A		
訪問調査日	平成21年11月11日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

木曾町の木曾駒高原の季節の移り変わりの良い環境の中に当事業所は1F・2Fのユニットで18名の利用者様と事業所の理念に基づいて利用者様の尊厳を尊重し、個別ケアの実践で常に思いやりの精神で利用者様の立場に立って専門職集団としてサービスの向上に努めながら、利用者様も家族様も家族単位のゆったりとした和やかな生活を共有しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は木曾駒高原のリゾート地にあり、日常的に近隣の方と接触する機会は少ないが、山間いで散歩途中に山菜採りや栗拾いをしたり、御岳山を眺めたりするなど、これまで過ごしてきた馴染みの生活は継続している。一人ひとりが役割を持って、そのひとらしくゆったりと和やかに生活できるよう支援している。運営推進会議は医師、消防署、県職員が委員に加わり、事業所のありのままを開示するなど充実した会議、開かれた事業所となるよう取り組んでいる。介護の在り方として、一人ひとりの生きる力を活用し、思いに寄り添って利用者と共に暮らそうとする姿勢が感じられた。食事が楽しみとなるよう側面からの援助として口腔ケアに力を入れ、入浴は希望により何時でも入れるよう取り組んでいる。毎月、利用者の暮らしや健康状態の様子や行事等で見せる笑顔の写った幸楽だよりを送るなど離れて暮らすご家族への温かい配慮がうかがえた。介護計画は毎月モニタリングを行い、支援経過の記録も着実であり、長・短期の目標は実現可能で具体的なものとなっており、アセスメントから評価まで丁寧に行われていた。

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

ユニット名(1F)					
項目		取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

ユニット名(2F)				
項目		取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキ-) + (Enterキ-)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を掲示し全職員に配布。会議、検討会等に常に共有し各自意志の統一を図っている。	個々に適した自立支援、思いやりの心、資質向上と自己研鑽の3つの柱を持った理念を正面玄関の壁に額入りで、来訪者に見やすく掲げ、具体的ケアの中で実践している。	現在の理念は事業所が運営やケアサービスを提供する上で拠り所となり、常に立ち戻る原点を明文化しているが、地域生活の継続性や事業所と地域との関係性に触れていないので、地域密着型の意義を盛り込んだ内容を加えることを期待します。
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日頃の挨拶や回覧や広報の伝達、地域のリサイクル、清掃等に参加交流している。	自治会に加入し、地域のリサイクルの当番や清掃などに参加、散歩時の挨拶や野菜のおすそ分け、隣組との付き合いも大切にするなど地域住民とつながりながら暮らすよう努めている。子供たちとの接触、職場体験やボランティアの受け入れなど地域から認められた事業所となるよう取り組んでいる。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症の理解、浸透のため、家族の皆様や知人、学識経験者等と交流。意見を求めたり、会話の中で共有。ボランティアの方々にも理解を求める。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的な会議の中で、改善すべき事項は、検討しながら受け入れ、報告も怠ることなくサービス向上に活す。	2か月に1度は開催するよう取り組んでおり、医師、消防署、県職員を委員に加えるなど会議が幅広い立場から意見が聞けるよう工夫されている。活動報告、今後の計画、ヒヤリハット報告もあり事業所のありのまま伝えられ、その透明性に事業所が地域と共にありたいという姿勢がうかがえた。	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	特に介護認定更新等、市町村から連絡がありスムーズに調査や対応ができ、事業所の実情やケアサービスの取り組みの協力関係が連携できる。	介護認定更新時、運営推進会議、電話連絡などを通じて事業所の実情を理解してもらうなど市町村との連携は取れている。	

外部評価結果(グループホーム幸楽)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	利用者様に常に安全に、ゆったりとその人らしい生活行動ができるよう見守り、声かけをし身体拘束、施錠等しないケアを実践している。	パンフレットに「身体拘束等の排除の理念及び方針」を掲げ、事業所の姿勢を表明するとともに職員への共有化を図っている。帰宅願望の強い利用者には、原因を把握し、事業所で役割を持って、その人らしく暮らしていけるよう支援している。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ともすると、過剰なスキンシップと誤解される行動がみられるため、皆で注意仕合スタッフの研鑽と意識改革に努めたい。		
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修では学んでいるが、現在は実践に結びつくケースは該当しない。必要に応じて支援したい。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者様、家族様の不安や疑問点をしっかり把握し、細かいところも納得できるよう対応している。わかりやすく説明し納得を得る。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	どんな細かいことでも、意見・要望として取り入れ安心して利用して頂くよう反映させたい。	毎月、暮らし振りや健康状態、金銭の状況、幸楽だより、請求書をまとめて送り、ご家族との繋がりを大切にして、信頼関係を築くよう取り組んでいる。意見箱もあるが意見や要望は少ない。どんな細かいことでも聞き入れる姿勢で臨んでいる。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	常に職員の希望事項やアドバイス等連携を密に提案等受け入れている。	管理者と現場の職員とのコミュニケーションは良く取れていて、相互に意見などを言い易い関係となっている。各ユニットにリーダーを配置して、中間管理者として職員の細かな意見や要望を把握し、管理者に繋げている。	

外部評価結果(グループホーム幸楽)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	常にオーナーと連携をとり報告すべきことはしっかり報告し又、職員の向上心を尊重しながら介護の質の向上に反映できるよう努めている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新しい職員も含め先輩が後輩を指導・育成出来る様研修会に参加し、働きながらトレーニングできるよう努めている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者の方とは必要時連携をとり、相互訪問等、活動を通じてサービスの質の向上に取り組んでいる。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者様と個別に尊厳をもって、傾聴・受容・共感をもって信頼関係を保ち、安心できる関係作りを実践している。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の方が、何を・今どうしたいのかの希望を聞き安心して利用者様、事業所と良い関係作りができるよう気づきを大切にしている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者様・家族様の話をしっかり聞き、希望に沿えるようできること・できないことを見極め、状況に合わせ支援している。		

外部評価結果(グループホーム幸楽)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様の気持ちを尊重し、共有できる環境の中で共に生活し常に同じステージでの環境づくり、関係を築いている。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	常に利用者様を中心に連携をとりながら個々の家族の皆様に、利用者様の絆が保てるよう支援している。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者様の入所前のケアマネージャーさんや友人、知人等面会に来られた方々と連携をとりながら関係を継続している。	基本情報や昔話から、これまでの生活環境を把握し、知人や友人が訪ねて来たり、受診の際に自宅に寄ったり、病院で友人等に出会ったりと、これまでの暮らしが継続できるよう努めている。ご家族との外出の際は、墓参りや馴染みの食堂、理美容院などに行っている。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	いつもホールでテーブルを囲み和気藹藹の和やかな環境の中でお互いに会話したり、レクをしたり互いに理解しあいながら関わりを持っている。		
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	グループホームを退所した家族の方への声かけや、見守りを必要に応じて行っている。又関連事業所とも連携している。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	その人らしくゆったりと安全に生活ができるよう個性を尊重し、対応している。	利用者の願いや思いを基本情報や日々の関わりの中で言葉や表情から把握し、木曾節を共に歌い、踊り、昔勤めていた頃の話などを聞くなど、その人らしくのんびりと過ごし、一人ひとりの生きる力を活用して利用者や職員と一緒に事業所で共に暮らしていこうと努めている。	

外部評価結果(グループホーム幸楽)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者様のアセスメントや昔の思い出話の中から、生活環境を把握し個々の利用者様が馴染みの生活を維持できるよう支援している。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常生活をしっかりと支援し、一日の暮らしの中でも変化の気付きを大切に、安全にゆったりした生活ができるよう努めている。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的カンファレンスを行い、家族の方が面会に来られた時や電話等又は、緊急時の連携等でよりよい利用者様の生活維持ができるよう計画を作成している。	長、短期の目標は実現可能であり、極めて具体的なものとなっている。毎月、モニタリング実践票により、評価を行い、3か月に1度介護計画の見直しを行っている。変化のあった時などはサービス担当者会議を開催し、ご家族などの出席を得て、臨機応変の見直しを行い、現状に即した介護計画を作成している。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者様の日々の生活の様子をケアを実践しつつ記録をしっかりと実践し、計画の見直しや、職員間の情報共有に役立てている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	事業所の多機能化は今後の課題である。高齢の利用者様が増え、ターミナル時介護が必要となってきたため検討している。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源との協働は前向きに検討している。		

外部評価結果(グループホーム幸楽)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>協定を結んでいる地域の診療所の医師に月2回往診をしていただいております。利用者様の体調管理や異常の早期発見・内服薬処方、検査等受療できている。</p>	<p>入居時に利用者のご家族の了解を得て、認知症の診療も出来る事業所の協力医療機関の医師をかかりつけ医とし、月2回の往診を受けている。歯科受診や入院対応も事業所の協力医療機関であり、適切な医療を受けられるよう支援している。</p>	
31		<p>看護職との協働</p> <p>介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>看護職員が実際に日常生活のかかわりの中で介護職員と協働し連携を密にし適切な医療や看護が受けれるよう努めている。</p>	/	/
32		<p>入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入院する場合はかかりつけ医の紹介もあり、病院関係者との情報交換や相談で利用者様が安心して療養できる様連携を密にし関係作りを行っている。</p>	/	/
33	(12)	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>高齢で、意識状態の変化や機能低下のある場合は、利用者様、家族様と連携、事業所ができること、できないことを見極め、チームで取り組んでいる。</p>	<p>重度化や終末期に対しては関係機関と連携して対応するよう取り組んでいるが、事業所としての基本方針については確定していない。</p>	<p>重度化や終末期の対応については今後確実に起こることであり、ご家族の不安もあるので、事業所として出来ること、出来ないこと、医師や看護師の協力体制、ご家族の思いと理解、他の利用者の気持ちなどを精査して、事業所の指針を作成することを期待します。</p>
34		<p>急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>常に、検討会や研修会ですべての職員が実践力を身につけていきたい。</p>	/	/
35	(13)	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>特定の安全な場所に利用者様が避難できるよう、全職員が把握しマニュアルに沿った支援と、地域との協働体制で対策を検討している。</p>	<p>年3回の訓練を行い、1回は隣組、消防署、消防団の協力を得ての訓練となった。通報、避難誘導、消火器の取り扱い、利用者を背負っての階段利用の避難など十分な訓練を行っている。防災設備もあり、近隣に職員が居住し、ユニット毎に夜勤者もいるなど災害への協力体制は整っていた。</p>	<p>夜間の災害は、1名の夜勤者で9名の利用者の命を守ることに、さらに2階に1ユニットあるので、常に防災への意識と現状に即した具体的な行動がとれるようにすることが大切であり、年2～3回の訓練以外に、イメージトレーニングなどを頻度よく重ねることを期待します。</p>

外部評価結果(グループホーム 幸楽)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々の利用者様の尊厳とプライバシーの保護に努め、常に声かけや対応の仕方注意している。	プライバシーを損ねるような言動をしないよう心掛け、職員同士の会話にも配慮している。個人情報の保護についてはパンフレットにも明記し、個人の記録は鍵の掛かる保管庫に、たよりの発行に際しては同意を得るなど一人ひとりの尊厳の保持に努めている。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	常に柔軟な対応で接し、利用者様がどのようなことでも表現できるよう希望に沿いながら、自己決定権を尊重している。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	何時も利用者様の立場に立ち個別ケアを元にゆったりと安定した生活に向け希望に沿って支援している。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	いつも身なりをきちんとでき、気持ちよく生活できるよう着替えや保清に気をつけ支援している。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	いつも利用者様が皆の中で必要とされているという気持ちを尊重し職員と一緒に食事の準備、調理、食事の片づけを行っている。	事業所の中で必要とされているという思いを持ってもらえるよう、調理から食器拭きまで、利用者の出来る範囲で職員と共に行っている。献立は職員が作成しているが役場の管理栄養士の指導を受けている。散歩途中で採った旬の食材を利用するなど、これまでの馴染みのある食生活の継続を心掛けている。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の利用者様の食事の量、栄養状態、水分量の一日のトータルが確認できるよう、食生活の習慣に応じ把握し支援している。		

外部評価結果(グループホーム幸楽)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔清式(歯磨き・うがい)口腔内の確認等習慣的に利用者様の力に応じたケアを行い、ご自分で出来ない人には職員が介助している。		
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の利用者様の排泄パターンを把握し習慣を活かし、定期的にトイレ誘導や便座に腰掛けて頂き自立排泄を支援。失禁やパッド使用を減す努力をしている。	ほとんどの利用者が自立しており、トイレ利用で一部介助(トイレの座位介助)の利用者もいるが、排泄パターンに沿ったトイレ誘導や声掛けを行い、排泄の自立に向けた支援ができています。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	適度な運動や水分補給に気をつけ食生活のバランスを考え、栄養状態に留意し個々の利用者様に合わせた予防に取り組んでいる。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	個々の利用者様の入浴パターンを尊重し入浴のニーズを把握し、希望に沿って柔軟に対応している。体調の悪い時は清拭、部分浴、足浴等に対応。安全とリラックスに留意しケアを行っている。	入浴は月～土曜日の午後、希望により、何時でも入れるよう取り組んでいる。平均して1日3～4人、1人週2～3回となっている。体調の悪い人は清拭などで対応し、風呂嫌いな利用者には入浴したい時に入るよう対応しているが、週2回は入浴するよう声掛けなどで工夫しながら対応している。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	布団乾燥や室内の環境整理に努め、安心して気持ちよく眠れるよう環境設定と寝具等の保清に努めている。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	常に内服薬及び処方薬の副作用に気をつけ、誤薬、誤飲がないようしっかり飲み込みを確認。症状の変化に努めている。常備薬、投薬前の確認の励行に努めている。		

外部評価結果(グループホーム幸楽)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎日の生活がそれぞれの利用者様にとって有意義で楽しく張り合いのある楽しい生活が送れるよう、それぞれの利用者様の力が発揮できる様、できることをしていただき気分転換できるよう支援し、感謝の気持ちを伝えている。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	歩行困難の利用者様もシルバーカーや車椅子等安全に利用、介助し戸外にでて外気に触れ気分転換している。家族の方と外出もできている。	事業所周辺の散歩、山菜採り、近くの公園の白鳥観賞、買い物や弁当持参の花見などのドライブ、ご家族付き添いの外出など戸外へ出る機会を多く持つよう取り組んでいる。冬期は雪のため外出ができないので、ストレスや運動不足解消のため、事業所内での楽しみを工夫し、多く持つようにしている。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族の方の意向も踏まえながら、お金を持っていることの安心感を考慮し事務室で預かりすぐに対応できるよう支援している。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者様は高齢であり又耳の遠い方もいて操作の苦手な人もいる。又手紙を書くことも抵抗があるため通信手段は職員が代理にて連携を支援。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	調品は利用者様にとって懐かしく感じたり、使いやすい物品を選んでおき思い出が回想できるよう考慮し柔軟に対応している。	居間、食堂、台所が一体のフロアとなり、調理の音や匂いが感じられ、利用者が語らい、集い、歌い、我が家として安心して過ごせる暮らしの空間になっていた。テーブルや壁には花や装飾品などが飾られ、家庭的で当たり前の暮らしの雰囲気があった。トイレや浴室は利用しやすい広さがあった。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関フロアのテーブルに花や手芸品を飾り又壁には花束、花、季節の装飾品を飾りゆったりとした空間でくつろぎあえるよう、居心地の良い環境づくりに努めている。		

外部評価結果(グループホーム 幸楽)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	寝具、コンテナ、タンス、収納箱、写真等利用者様の思い出の品物が持参され、使い心地や愛着を持って利用されている。安心感と居心地の良さを考慮し支援している。	ベッドは事業所で準備したが、それ以外は全て利用者ご家族で、その人らしく暮らしていけるよう、寝具、タンス、写真などが配置されていた。窓からは御岳山や季節の移り変わりを味わえる木々が眺められ、これまでの日々が継続しているように感じられる居室になっていた。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者様の日常の生活において混乱や、行動の失敗に対して環境面からスポットをあて、身体機能の変化を見過ごすことなく現状に応じた環境づくりを行っている。		

自己評価および外部評価票

(セル内の改行は、(Altキ-) + (Enterキ-)です。)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を共有し常に意識した上で業務にかかわることができるよう、職員会議等で読み合わせしている。	個々に適した自立支援、思いやりの心、資質向上と自己研鑽の3つの柱を持った理念を正面玄関の壁に額入りで、来訪者に見やすく掲げ、具体的ケアの中で実践している。	現在の理念は事業所が運営やケアサービスを提供する上で拠り所となり、常に立ち戻る原点を明文化しているが、地域生活の継続性や事業所と地域との関係性に触れていないので、地域密着型の意義を盛り込んだ内容を加えることを期待します。
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩時の挨拶や、回覧届け時の会話等で交流している。又地域のリサイクル当番や、清掃にも積極的に参加している。	自治会に加入し、地域のリサイクルの当番や清掃などに参加、散歩時の挨拶や野菜のおすそ分け、隣組との付き合いも大切にするなど地域住民とつながりながら暮らすよう努めている。子供たちとの接触、職場体験やボランティアの受け入れなど地域から認められた事業所となるよう取り組んでいる。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症に対する理解を深めて頂くよう運営推進委員となる地域の方々を通して地域の声をあげていただいている。	/	/
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	課題となった項目に関しては、事業所内で検討し次の会議の中で検討結果として報告している。	2か月に1度は開催するよう取り組んでおり、医師、消防署、県職員を委員に加えるなど会議が幅広い立場から意見が聞けるよう工夫されている。活動報告、今後の計画、ヒヤリハット報告もあり事業所のありのままが伝えられ、その透明性に事業所が地域と共にありたいという姿勢がうかがえた。	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	介護保険更新時の調査依頼の際には、町から事前に連絡頂きその際に連携をとりスムーズに取り組んでいる。	介護認定更新時、運営推進会議、電話連絡などを通じて事業所の実情を理解してもらうなど市町村との連携は取れている。	

外部評価結果(グループホーム幸楽)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全職員が共有し、施錠せず、見守り・声かけを徹底している。	パンフレットに「身体拘束等の排除の理念及び方針」を掲げ、事業所の姿勢を表明するとともに職員への共有化を図っている。帰宅願望の強い利用者には、原因を把握し、事業所で役割を持って、その人らしく暮らしていけるよう支援している。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	会議等で常に意識しているため、虐待はないが、職員のスキミングが誤解されることもあるため注意している。		
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	理解はしているが、現在は該当がない。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	家族等に理解、納得していただけるよう、丁寧に説明し家族等の想いもできる限り聞いている。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族等の意見や要望は常に職員間で素直に受け入れ、又運営推進会議等の場で提案し反映させている。	毎月、暮らし振りや健康状態、金銭の状況、幸楽だより、請求書をまとめて送り、ご家族との繋がりを大切にして、信頼関係を築くよう取り組んでいる。意見箱もあるが意見や要望は少ない。どんな細かいことでも聞き入れる姿勢で臨んでいる。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	常に連携をとり、意見を頂いている。	管理者と現場の職員とのコミュニケーションは良く取れていて、相互に意見などを言い易い関係となっている。各ユニットにリーダーを配置して、中間管理者として職員の細かな意見や要望を把握し、管理者に繋げている。	

外部評価結果(グループホーム幸楽)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員一人ひとりの意見を聞きいれながら努めている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	機会があれば常に紹介して頂き、積極的に取り組める環境を提供している。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	情報交換をし連絡を取っている。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	常に傾聴し、安心できる環境、関係を作っている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族等の意見・要望をしっかりと聞きいれた上で信頼関係を築いている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者様や家族等と面接し、まず良く話を聞き必要とする最優先の支援を見極め、順序、必要とするサービスを検討している。		

外部評価結果(グループホーム幸楽)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	決して職員側の生活のリズムを押しつけない様利用者のペースに合わせて対応している。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	常に利用者様を中心におき家族等に理解、協力を仰ぎながら対応している。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族等に協力して頂きながらできるだけご本人が安心して生活して頂けるよう支援している。	基本情報や昔話から、これまでの生活環境を把握し、知人や友人が訪ねて来たり、受診の際に自宅に寄ったり、病院で友人等に出会ったりと、これまでの暮らしが継続できるよう努めている。ご家族との外出の際は、墓参りや馴染みの食堂、理美容院などに行っている。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	共同生活ということ意識しながらグループで食事をしたり、レクをしながら関わっている。		
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所の際には家族等を含め、関係事業所と連携をとりながらフォローしている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個々の想いを尊重するよう常に把握し対応している。	利用者の願いや思いを基本情報や日々の関わりの中で言葉や表情から把握し、木曾節を共に歌い、踊り、昔勤めていた頃の話などを聞くなど、その人らしくのんびりと過ごし、一人ひとりの生きる力を活用して利用者職員と一緒に事業所で共に暮らしていこうと努めている。	

外部評価結果(グループホーム幸楽)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	今までの生活の背景をしっかりとアセスメントしその人らしい生活の仕方を把握して対応している。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	それぞれの利用者様の現状をしっかりと把握し心身共に安心できる生活を支援している。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	現状を把握し家族及び利用者様、介護員等意見交換や今後の支援のあり方について介護計画を作成している。	長、短期の目標は実現可能であり、極めて具体的なものとなっている。毎月、モニタリング実践票により、評価を行い、3か月に1度介護計画の見直しを行っている。変化のあった時などはサービス担当者会議を開催し、ご家族などの出席を得て、臨機応変の見直しを行い、現状に即した介護計画を作成している。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者様の日々の生活の様子や気付きに特に力をいれ職員間で共有しながら見直しモニタリングしている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	高齢となり機能低下の利用者様も増え在宅の看取りに近い介護が必要となってきており今後検討しながら対応したい。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源との協働は前向きに検討している。		

外部評価結果(グループホーム幸楽)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>協定を結んでいる診療所で診療を依頼しており月2回医師の往診があり診療を受けている。処方もあり届けていただく。緊急時の受診等臨機応変に受診している。</p>	<p>入居時に利用者のご家族の了解を得て、認知症の診療も出来る事業所の協力医療機関の医師をかかりつけ医とし、月2回の往診を受けている。歯科受診や入院対応も事業所の協力医療機関であり、適切な医療を受けられるよう支援している。</p>	
31		<p>看護職との協働</p> <p>介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>グループホームでは介護職員が利用者様の異常の早期発見で看護師に連絡。看護師が状態の確認で適切な対応(受診、処置、看護)を行っている。</p>	/	/
32		<p>入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>利用者様が入院した場合、早期の退院を目指し医師や他の医療関係者と相談、情報交換を行い関係作りに努めている。</p>	/	/
33	(12)	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>利用者様も高齢となり少しずつ体調にレベル低下があり重度化、終末期に向けたケアの在り方について検討している。</p>	<p>重度化や終末期に対しては関係機関と連携して対応するよう取り組んでいるが、事業所としての基本方針については確定していない。</p>	<p>重度化や終末期の対応については今後確実に起こることであり、ご家族の不安もあるので、事業所として出来ること、出来ないこと、医師や看護師の協力体制、ご家族の思いと理解、他の利用者の気持ちなどを精査して、事業所の指針を作成することを期待します。</p>
34		<p>急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>消防署主催の救急・救命訓練を行い有事に備え実践力を身に付けている。</p>	/	/
35	(13)	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>特定の安全な場所に利用者様が避難できるよう全職員が把握し、マニュアルに沿った支援と地域の協力体制で対策を検討している。</p>	<p>年3回の訓練を行い、1回は隣組、消防署、消防団の協力を得ての訓練となった。通報、避難誘導、消火器の取り扱い、利用者を背負っての階段利用の避難など十分な訓練を行っている。防災設備もあり、近隣に職員が居住し、ユニット毎に夜勤者もいるなど災害への協力体制は整っていた。</p>	<p>夜間の災害は、1名の夜勤者で9名の利用者の命を守ることに、さらに2階に1ユニットあるので、常に防災への意識と現状に即した具体的な行動がとれるようにすることが大切であり、年2～3回の訓練以外に、イメージトレーニングなどを頻度よく重ねることを期待します。</p>

外部評価結果(グループホーム幸楽)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々の利用者様の尊厳とプライバシーの保護に努め常に言葉かけや対応の仕方注意している。	プライバシーを損ねるような言動をしないよう心掛け、職員同士の会話にも配慮している。個人情報の保護についてはパンフレットにも明記し、個人の記録は鍵の掛かる保管庫に、たよりの発行に際しては同意を得るなど一人ひとりの尊厳の保持に努めている。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	常に柔軟な態度で接し、利用者様がどんなことでも表現できるよう希望に沿いながら自己決定権を尊重している。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	何時も利用者様の立場に立ち、個別ケアを元にゆったりと安定した生活に向け希望に沿って支援している。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	いつも身なりがきちんとでき、気持ちよい生活が維持できるよう着替えや保清に気をつけ支援している。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	いつも利用者様が皆の中で必要とされている気持ちを尊重し、職員と一緒に食事の準備、調理をし食事の片づけを行っている。	事業所の中で必要とされているという思いを持ってもらえるよう、調理から食器拭きまで、利用者の出来る範囲で職員と共に行っている。献立は職員が作成しているが役場の管理栄養士の指導を受けている。散歩途中で採った旬の食材を利用するなど、これまでの馴染みのある食生活の継続を心掛けている。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の利用者様の食事の量、栄養状態、水分量の一日のトータルが確認できるよう食生活の習慣に応じて把握し支援している。		

外部評価結果(グループホーム幸楽)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔清式(歯磨き、うがい)口腔内の確認等習慣的に利用者様の力に応じてケアを行いご自分で出来ない場合は職員が介助している。		
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の利用者様の排泄パターンをしっかり把握し習慣を生かし定期的なトイレ誘導や便座に腰掛けて頂き自立排泄を支援している。	ほとんどの利用者が自立しており、トイレ利用で一部介助(トイレの座位介助)の利用者もいるが、排泄パターンに沿ったトイレ誘導や声掛けを行い、排泄の自立に向けた支援ができています。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	適度な運動や、水分補給に留意し食生活のバランスを考え栄養状態に留意し個々の利用者様の状態に応じた予防に取り組んでいる。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	個々の利用者様の入浴パターンを尊重し入浴時ニーズを把握し、希望に沿って柔軟に対応している。体調の悪い時清拭・部分浴・足浴等で対応している。	入浴は月～土曜日の午後、希望により、何時でも入れるよう取り組んでいる。平均して1日3～4人、1人週2～3回となっている。体調の悪い人は清拭などで対応し、風呂嫌いな利用者には入浴したい時に入るよう対応しているが、週2回は入浴するよう声掛けなどで工夫しながら対応している。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	布団乾燥や室内の環境整備に努め、安心して気持ちよく眠れる空間と寝具の保清・照明に気をつけている。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	常に内服薬及び処方薬の副作用に気をつけ誤薬、誤飲がないようしっかり飲み込みを確認。症状の変化に留意している。準備、投薬前の確認の励行に努めている。		

外部評価結果(グループホーム幸楽)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎日の生活が利用者様にとって有意義で楽しく張り合いのある楽しい生活が送れるよう、それぞれの利用者様の力が発揮できるよう出来ることをしていただき気分転換できるよう支援。感謝の気持ちを伝えている。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	歩行困難な利用者様もシルバーカーや車椅子等を安全に利用、介助し戸外へ出て外気に触れ気分転換している。家族の方と一緒に外出できる。	事業所周辺の散歩、山菜採り、近くの公園の白鳥観賞、買い物や弁当持参の花見などのドライブ、ご家族付き添いの外出など戸外へ出る機会を多く持つよう取り組んでいる。冬期は雪のため外出ができないので、ストレスや運動不足解消のため、事業所内での楽しみを工夫し、多く持つようにしている。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族の方の意向も踏まえながら、お金を持っていることの安心感を考慮し事務所でお預かりし、必要時対応できるよう家族と連携している。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者様は高齢であり又耳の遠い方もいて操作の苦手な人もいる。また手紙を書くことは好きな方がいて友人、家族に書いている。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食器や調理器具等は利用者様にとって懐かしく感じたり、使いやすいものを選んでいただき、思い出、回想できるよう考慮し柔軟に対応している。	居間、食堂、台所が一体のフロアとなり、調理の音や匂いが感じられ、利用者が語らい、集い、歌い、我が家として安心して過ごせる暮らしの空間になっていた。テーブルや壁には花や装飾品などが飾られ、家庭的で当たり前の暮らしの雰囲気があった。トイレや浴室は利用しやすい広さがあった。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	エレベーターの降下場所にフロアがあり人形、花、手芸、装飾品等置き、椅子に座り会話できる休憩場所を設け、天気の良い日は御岳を望んでいる。		

外部評価結果(グループホーム幸楽)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	寝具、コンテナ、たんす、収納箱等、利用者様の思い出の品物が持参され、それらに使い方の愛着を持って利用されている。安心感と居心地の良さに配慮して支援している。	ベッドは事業所で準備したが、それ以外は全て利用者ご家族で、その人らしく暮らしていけるよう、寝具、タンス、写真などが配置されていた。窓からは御岳山や季節の移り変わりを味わえる木々が眺められ、これまでの日々が継続しているように感じられる居室になっていた。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者様の日常の生活において混乱や失敗に対して、環境面からスポットを当て身体機能の変化を見落とすことなく現状に応じた環境を作っている。		